

《教育長メッセージ 第17号》

『通知表』

学校での子どもの様子を家庭に知らせるのが通知表です。学期ごとに、家庭に届きます。「通信簿」「通信票」と呼ばれることもあります。

私と同年代の方には、「つうしんぼ（通信簿）」というひびきが懐かしく感じられるのではないのでしょうか。



みなさんも、子どもの頃に終業式や修了式で、担任の教員から渡されたことでしょうか。

その日、学級では、様々なドラマが繰り広げられます。

ドキドキして、ちょっと期待して、受け取ります。おそろおそろ友だちに見られないように開いて、ニコッとする子、ガッカリする子。中には堂々と開いて、大声で「やったあ。」とか「ガーン。」とか表現する子もいます。悲喜こもごも、でも、多くの子どもは、その後の長い休みに気持ちが移って、元気に学校から帰っていくのです。

実は、通信票を書く側は、大変なのです。教員として、プロですから、多くの資料を分析して、正當に評価すればよいことなのですが、5段階評価の場合だと、「1」か「2」か、「2」か「3」か・・・。

もちろん、評価の決まりに従って行うのですが、私の場合は、子どもの顔が浮かび、時には、保護者の顔も浮かんでくるのです。子どもたちは、その学期ごとに、家庭のことや学校のことでの心持が違い、中には、どの教科もうまくいかない結果の学期があったりもするのです。そんな時には、所見欄にがんばったことをこれでもかというぐらいいっぱい書くようにしました。人を評価することは難しいことです。教員も悩んで悩んで評価するのです。

我が家は、男三兄弟です。我が家の通知表のご褒美は、評価がひとつ下がると、ひとつにつき500円もらえます。成績が上がった場合は、ひとつにつき「お尻ペン」1回です。もちろん、どちらにしる、「よくがんばった。」と励ましました。

さて、お子様をお持ちのご家庭では、第二学期の通知表を子どもたちが持ってきたことでしょうか。

どんな声をかけたのでしょうか。

大切なことは、今を正しく知ることと、子どもに次への意欲を持たせる

ことです。子どもが第三学期もがんばろうという意欲が持てる言葉を添えてほしいものです。

次回は、「新年」について、子ども頃のことを交えて私の思いをお伝えしたいと思います。